

2017年上期助成金申請一覧

No.	申請団体	事業名	実施日・場所	事業内容	総経費	決定
1	熊本ママさんプラスバンド ONE PEACE	熊本ママさんプラスバンド ONE PEACE 第7回コンサート	2017年6月17日(土) 熊本市国際交流会館6・7Fホール	2009年7月より数名のママ達が立ち上げ、活動を開始、団体名通り、ママさん(子連れ)のプラスバンドサークルである。メンバーは熊本県内在住の主に子育て中のお母さん達で、現在、約30名が在籍。「こどもたちと一緒に音楽を楽しみ、家庭も地域も明るくしよう」をモットーに活動中。一般的にコンサートには未就学児が入場できないことが多いため、当コンサートではこどもたちにも生演奏を聴いてもらい、音楽の楽しさはもとより、楽器の振動を肌で感じ、演奏者の表情や息遣いなども含めて五感で体験してもらいたい。また、コンサートホールでの演奏はメンバーのモチベーションを高める重要な機会ともなっている。	196,220	50,000
2	全国邦楽ジュニアコンクール&コンサート実行委員会(熊本箏演奏者協会)	第9回全国邦楽ジュニアコンクール&コンサート in Kumamoto	2017年8月20日(日) 森都心プラザホール5F	熊本箏演奏者協会は2016年で30周年を迎えた団体である。日本の大切な伝統文化である邦楽が若い世代の受け継がれ、更なる発展につながるよう、全国から参加を募り、コンクールとコンサートを行う。2年ごとに、コンクールを行っており、今回は9回目となる。次世代を担う子どもたちの日本音楽に対する意識の高揚と技能の育成を願い、さらに地元の邦楽振興を目的としている。	1,190,000	100,000
3	一般社団法人ヒューマンライツふくおか	国立療養所菊池恵楓園絵画クラブ 金曜会における作品の調査及び保存と修復	2017年4月～9月(月1回)計6回 国立療養所菊池恵楓園やすらぎ会館	恵楓園には入所者が描いた絵画作品約850点あまりが残されているが、それらは全国に13ヶ所にある療養所の中でも群を抜いている。入所者の残した遺品は引き取り手がない場合、多くは焼却されるが絵画は仲間に託す形で残っていた。現在それらの作品を後世に残すべく、昨年より保存活動を行っている。残された絵画を通して入所者との関わりを持つことから、ハンセン病の歴史やそこに生きた人の想いを想像することで生命の尊厳を感じる啓発活動につなげたい。	300,000	50,000
4	藤豊会	熊本地震復興支援公演 volⅡ(仮称) 第63回藤豊会公演	2017年8月6日(日) 熊本県立劇場演劇ホール	藤豊会は、江戸時代より続く日本三大流派の一つである藤間流の古典日本舞踊の研鑽と伝承を目的に昭和8年に発足、昨年創立80周年を迎えた。昨年4月の熊本地震があり、復興に向けて何をすべきかと深く考えさせられ多くの方の励ましや支援を受け、昨年は県立劇場にて公演することができた。今年も熊本地震による復興を祈念し、本年の公演を企画した。皆様に少しでも日本舞踊を通して心の支えになるような内容を検討している。	8,550,000	200,000
5	TRINITY	TRINITYスペイン公演2017	2017年7月21日～8月1日 スペイン グラナダ市、サラゴサ市	熊本市人づくり基金助成対象者の中から選ばれた、異なるジャンル(新舞、フラメンコ舞踏、ピアノ)の女性三人によるTRINITYは、熊本生まれの国際派ユニットとして積極的に創造活動を行っている。昨年の八代公演において、ゲストのスペイン人アーティストから高い評価を受けたのをきっかけに、この夏、スペイン・グラナダにて、10日間規模のフェスティバル日本文化週間「日本とフラメンコ」の開催、また大学の街サラゴサでは日本伝統楽器の代表である箏のワークショップとTRINITYのオリジナルステージを行い、日本・スペイン両国の文化の交流を行う。	1,020,000	150,000
6	劇団ゼロソー	ゼロソー「ピッチドロップ」	2017年5月20日(土)、21日(日) 早川倉庫(熊本市中央区万町)	ゼロソーは、熊本に新たな演劇の礎を築こうという理念の基に、熊本大学演劇部OBを中心に旗揚げた劇団。これまで「王様は白く思想する」「101年目の太宰治」「ゼロソーの嫉妬」などの多くの作品を上演。本公演は2015年に作品「チッタチッタ・・・」で、九州の劇作家を顕彰する九州戯曲賞大賞を受賞した熊本在住の劇作家 河野ミチユキの最新作。震災から1年を経過した熊本で、震災後、アートの社会的役割について考え、熊本の方に是非生きる力を感じて欲しいという想いで新作の上演に取り組んでいる。	888,000	100,000
				(計)	12,144,220	650,000